

平成17・18年度  
修徳学区

# 修徳学区 まちづくり憲章 第1部

平成18年3月

修徳自治連合会  
修徳まちづくり委員会



# 目次

まちづくりへのご協力をお願い [修徳自治連合会 会長 平井常夫] …	2
『修徳学区まちづくり憲章』作成の目的 ……………	3
修徳学区の目指す姿 ……………	4
まちづくりのテーマ ……………	4
修徳学区の歴史 ……………	5
伝統ある修徳をまもっていきましょう ……………	7
人と人とのつながりを大事にする修徳でありつづけましょう ……………	8
賑わいのある修徳にしましょう ……………	9
自分たちの誇りにふさわしい町並みを増やしましょう ……………	10
修徳学区内の建築物の建て方をお願い ……………	11
『京のまちやな〜』とを感じる町並みを大切に! ……………	11
修徳学区民は次に示すような建築物の建て方を望んでいます ……………	12
こんな建て方がよいと思いませんか? [町家編] ……………	13
こんな建て方がよいと思いませんか? [町家改修・新築編] ……………	14
こんな建て方がよいと思いませんか? [マンション編] ……………	15
こんな建て方がよいと思いませんか? [企業ビル・店舗編] ……………	16
(資料 - I) 修徳学区の地区計画 ……………	18
(資料 - II) 修徳学区の位置と現状 ……………	20
修徳学区の位置 ……………	20
町並みの変化 ……………	21
修徳学区の現状 ……………	23
修徳学区の名所・旧跡 ……………	25
(資料 - III) 修徳自治連合会の事業活動の紹介 ……………	26

## まちづくりへのご協力のお願い



修徳自治連合会 会長 平井 常夫

修徳学区民の皆さんが「この学区（まち）は住みつづけたいよいまち」で、「もっとよくしていきたい」とお考えになっていることは、今までの自治連合会の事業活動や行事に参加していただいている様子で、よく理解いたしております。仕事等其他のご事情で参加できない皆さんも、広報紙『脩徳』の記事で紙上体験をしていただいております。屋外の行事では洛央校区の親子もふくめ千人の集いとなり、屋内の行事や会合では百人の集いが定着して、修徳学区民の心の絆が、いかに強いものであるかを実感いたしております。

もともと、この修徳学区は近隣都市へのアクセスが便利で、学区内に商工業の賑わいもあり、生活意識のレベルも高いと自認してまいりました。毎日の生活物資の調達も学区内ででき、町並みも道路もきれいで、顔の見える絆の強いまちでした。

しかし、かげりも感じられます。最近賑わいが失われ、新しく建つマンションやビルのなかには、修徳の歴史や伝統にふさわしくない建物もあり、新しい住民の皆さんと顔が見える関係がなかなかつくれず、両側町の安心安全やモラルにも、少しばかり、かげりが見えてきました。放火、ひったくり、車上狙い、まちを汚すポイ捨て、子どもたちへの犯罪、高齢者への犯罪など学区の内外で不安はひしひしと感じてきています。

とはいえ、まだ、修徳学区では、町並みも決定的な違和感にまでは至っておりませんし、モラル面も犯罪面も不安感はあるものの地域のなかでは、ほとんど発生しておりません。今が最後の残された時間だと思えます。そこに、私が『修徳学区まちづくり憲章（第1部）』の策定を、まちづくり委員会に指示した理由があります。ほかにはないこの学区の歴史的な人脈と文化的史跡に誇りを持ち、町家を中心とした伝統に調和した町並みを京都の修徳らしく創りあげていきましょう。個人の住宅もビル、マンションも、高さや形や色が町並みになじみ、緑の多い顔の見える交流しやすい建物にしていこうという意思表示をしていただきたいと思います。来年度は『修徳学区まちづくり憲章（第2部）』の策定にかかります。住まいと環境の問題、防災防犯などの危機管理問題、健康弱者交通弱者対策、まちを美しくする道路設備対策やモラルの向上などを、学区民の皆さんに表明していただく内容にしたいと考えております。

『修徳学区民は、この学区（まち）を、こんな風によくしたいと思っています。』と、今のうちに学区の内外に宣言したいと考えています。ぜひ、ご自分のこととして、ご賛同とご協力を賜りたいとお願いする次第であります。

## 『修徳学区まちづくり憲章』作成の目的

わたくしたち修徳学区民は、修徳学区という地域（まち）の歴史と文化的史跡にまつわる人脈から、平安時代から鎌倉時代にかけて、京都の政治と文化の中心地であったことを誇りに思い、室町時代末期以来の「町と町組」の伝統を「町内会と自治連合会」の組織と活動に生かし、学区民同士の強い絆を形成しつづけていきたいと考えております。

わたくしたち修徳学区民は、まちの賑わいをつくる商工業を営む人たちと、周辺大都市へのアクセスの便利さから、京都市内とその周辺都市の企業に勤める経営者、勤労者で構成されており、物質的にも精神的にも高い水準をもつ「まち」であると自負してきました。また、住民同士の絆が強く、ひとへの思いやりも強いことから生活環境もよく、わたくしたち学区民は、地域に誇りをもち、長く住みつづけたいと思ってきました。それこそわたくしたちが修徳学区をきれいなまちにしてきた要因でもあります。

しかし、最近、その「きれいなまち」にも、心ない動きがみられるようになって、わたくしたち学区民は心配しはじめています。この「きれいなまち」のモラル面もさることながら、最近の町並みの乱れに注目すると、まちの賑わいが失われ廃業した商店や高齢化による町家の売却跡地が、空家のまま放置されたりガレージになっていたり、あるいは、伝統的な町並みや住民の気持ちに配慮のないビル、マンションが建設されてきた事例が多いことに原因があると考えられます。

また、マンションによる人口の増加は、別の賑わいをつくりだしているとはいえ、建物のあり方自体も、そこに住む人たちの間の絆を弱めてしまっているのではないのでしょうか。このような「まちの自治」の外に生活する人たちの増加で、わたくしたち修徳学区民との関係だけでなく、マンション住民の皆さん同士でも、顔を見えなくし、たがいの絆を弱める風潮を醸成してきているように思われます。これを克服するために、修徳学区民は「こうしたいと考えています」というのが、『まちづくり憲章』の内容なのです。

このような多くの要因が、健康、長寿、命を脅かすあらゆる生活上の課題をつくりだしているのではないのでしょうか。災害、公害、事故の発生から、一度しかない命と健康をまもるため、あらゆる事例を考えて防ぐことが危機管理の考え方の基本であり、自分たちが日常生活の全側面を点検し、安心安全を脅かす要因を見つけ出し、それを取り除いていかななくてはならないと自覚していきたいものです。

これが、『修徳学区まちづくり憲章』をつくる目的なのです。



# 修徳学区の目指す姿

## まちづくりのテーマ

### ○歴史と由緒ある地域に誇りのもてるまち

他に誇れる由緒ある歴史的資産と、寺社とつながりの深い職や暮らしの文化など、地域がもつ個性、特徴を地域に住む人自身が知り、また学区外の人にも伝えていきましょう。

### ○地域の誇りとなるお祭りのあるまち

地域が一丸となってまもり育てていける祭事を修徳につくりましょう。

### ○自治の伝統をまもり、顔の見える絆の強いまち

新しくお住まいになる人に修徳のことを伝え、活動に参加いただき、ともに気持ちよく暮らしていけるまちをつくりましょう。

### ○商工業の店の多い、歩いて暮らせる賑わいのあるまち

かつての賑わいと活気あふれる修徳をもう一度つくっていきましょう。

### ○修徳学区が昔から大切にしてきたものと、今の暮らし方との調和に配慮した町並みがあるまち

今でも地域に見られる町家や、寺社、商店街など、地域のなかに様々にある風景を大切に、建築行為を行なうときはそれらに配慮した町並みをめざしましょう。

## ■修徳学区の歴史

### 誇るべき二つの「伝統の柱」

修徳学区という地域には、歴史的な政治と文化面での伝統と、町と町組の自治の伝統の、誇るべき二つの「伝統の柱」があります。

#### [1] 政治的文化的史跡と歴史的人脈

##### (1) 鎌倉初期の公家政治の改革者、関白九条兼実の人脈

修徳学区の東部には関白九条兼実の和歌の師であった藤原俊成の邸宅跡が、五条大路（現在の松原通）の烏丸小路から室町小路にかけてあり、南は樋口小路（現在の万寿寺通）にまで及んでいたといわれています。そのため俊成は五条三位と称されました。烏丸通松原下の俊成社は俊成の霊を祀っています。また、「俊成邸内に和歌山の玉津島神社の歌道の神、衣通郎姫を勧請せよ」と後鳥羽天皇の宣旨が下ります。それが松原通烏丸西入りの新玉津島神社です。そして、第7番目の勅撰集「千載和歌集」を撰進するよう後白河法皇の院宣が下り、俊成は自分の邸宅内（新玉津島神社から南へ室町までの部分）に「和歌所」を設置しました。それ以来、この「和歌所」の別当が、新玉津島神社の別当（神職）を兼任する慣習ができました。

そして、学区の西部には兼実の信仰の師であった法然の弟子で、兼実の弟の天台座主慈円の弟子でもあった親鸞が晩年を過ごし入滅した、兼実の花園別邸跡があります。現在の位置は、親鸞入滅の石碑がある松原通西洞院東入りの光圓寺から月見の池のあった万寿寺通東入りの大泉寺までの一帯であります。兼実の人脈でつながる修徳学区の東と西のこの地域は、鎌倉初期の政治文化の中心地だと確認することができます。

##### (2) 平安後期白川院政時代の大江匡房の千種殿と江家文庫

院政を支えた律令官僚の受領（現地着任する国司、現在の知事クラス）で文章家であった大江匡房は、美作守に任ぜられたとき、他の受領たちと同じく富をたくわえ、五条大路から六条坊門小路（現在の五条通）、西洞院大路から室町小路の広大な土地にあった具平親王の邸宅を手に入れ、その東北部分に江家文庫をつくり、万卷の書籍を蒐集しました。この邸宅は千種殿といわれ、この一帯を千草町といっておりました。ここも平安時代院政初期にも、政治と文化の中心地と確認することができます。

このような受領の蓄財に関わる史跡には、「江州五倉」といわれた近江守藤原隆時の倉庫群のひとつが五条大路東洞院大路（現在の東洞院松原）付近にありました。こういった受領たちの邸宅が五条大路に立ち並んだといえます。また、この受領層は、その子弟から紫式部や清少納言などを輩出し、当時の政治と文化の担い手でした。

##### (3) 祇園会由来の町と京都の城下町化による領主の京屋敷の存在

修徳学区には、室町時代以降に、祇園社の牛頭天王の八王子とその神社の創建に関わる石に由来する烏丸万寿寺付近の町など鉾町に由来する伝承のある町や鉾町の寄町があります。また、江戸時代には京都の城下町化で亀山藩や伊予藩の京屋敷があった伝承が一、二の町にみられます。

今後とも、通りや町の由来を調査研究して、学区の史跡や町の由緒を学区民の誇れる資産としていきたいものです。

## [2] 町と町組の自治の伝統

### (1) 戦国時代、織田信長に公認された自治組織

室町時代末期には、自衛のために存在した町と、その連合体である町組、さらに、下京に5つある町組のまとまりである惣町がありました。信長は、その町に警察権行刑権を公認し、町で処理できないときは、町組の惣町で補完せよとっています。戦国時代までは、町と町組の組織は五条大路（現在の松原通）までしかありませんでした。修徳学区の各町は、豊臣秀吉が西本願寺を寄進し、その寺内町が発展していく過程で町ができていき、巽組、川西9町組、川西16町組にわかれて所属していきます。通日も秀吉が六条坊門小路を「五条通」としたため、もとの五条大路は新玉津島神社の松林にちなんで、「松原通」となりました。江戸時代にも、この自治の伝統は継承されたのです。

### (2) 明治維新の町組の一円化と修徳小学校の学区経営

明治維新になると、欧米列強に肩を並べる近代文明国になるには、教育がその基礎になければならないと、自治の伝統をもつ町と町組を活用し、町組を番組と名称を変え、さらに、一番組一小学校とし、小学校を中心に一円化しました。修徳学区は、当時第14番組といわれ、徳万町の北条太平衛さんがその敷地を寄付し、日本で最初に、第14番組小学校を建設し授業を始めました。後の総理大臣伊藤博文が来訪して、明治維新の改革と復古の精神を表した中国の『詩経』大雅篇文王章第6章の「脩厥徳」（その徳を修めよ）を扁額に書き、修徳小学校と命名してくれました。修徳小学校は、日本で最初に小学校会社を設立し、学区が小学校を経営していきました。この学区経営は、昭和17年、当時、国民学校と称していた小学校が、市立となり京都市に経営が移るまでつづきました。修徳学区民の誇りがここにもあり、小学校を核とする強い心の絆が育まれる基盤になりました。

### (3) 洛央小学校への統合から「まちづくり」へ

戦後、民主主義教育になり、昭和22年に市立修徳小学校となってからも、昭和49年の修徳小学校のプール建設にみられるように、小学校への学区民の資金援助はつづきました。そして、昭和63年末に転機がまいります。洛央小学校への統合が決定し、修徳小学校の跡地を学区民の心の絆の核にふさわしい施設にするだけでなく、跡地問題を「平成の事業=修徳学区のまちづくり」に昇華させるため、まちづくりテーマ「社会教育プラザ 花と緑 健康と福祉の学区（まち）修徳」を掲げます。跡地を福祉施設とし、運動場跡に学区民みんなでデザインした修徳公園をつくって学区民の強い絆の核とし、学区の景観の中心に位置づけました。修徳学区の「まちづくり」の特徴は、勉強会、アンケート、ワークショップなど学区民の想いを確かめながら、それを文書に策定していき、共通認識を豊富にしていくことです。平成13年3月には、学区民の想いを集大成した『修徳学区の地区計画』を、京都市都市計画審議会が承認しました。そして、さらに『修徳学区の地区整備計画』を策定する前に、修徳学区の文化的史跡にふさわしい町並みや安心安全できれいな「まち」づくりの共通認識を学区外の関係者にも理解してもらうため、『地区計画』を更に詳細にし具体化した『修徳学区まちづくり憲章』を、このたび、策定いたしました。この『憲章』を基礎に、この学区（まち）を町衆の心意気で、住みつけたい、顔の見える、きれいな「まち」にしていきたいと思います。



## ■ 伝統ある修徳をまもっていきましょう

### 歴史と由緒ある地域に誇りのもてるまち 地域の誇りとなるお祭りのあるまち

修徳の歴史や伝承と文化的史跡や名所について地域の人に尋ねると、新玉津島神社、俊成社、大泉寺、光圓寺、悪王子社（現八坂神社内）、亀山稲荷、道祖神社など、地域の誇れる場所が数多く残っていることがわかります。また、それぞれ地名には由来があり、その由来から知ることのできる歴史はたいへん興味深いものです。しかし、残念なことに、これらの歴史や伝承、文化的史跡を知らない世代の人が地域に増えてきています。これらの地域の歴史的資産を伝える人がいない、伝える機会がない現状のままでは、修徳の歴史的資産を残していくことが困難になります。

また、かつての修徳はお祭りをはじめとし、様々な伝統行事がありましたが、今では地域のお祭りがなくなり、子どもの数が減るなかで地蔵盆も減っています。これらの伝統を地域の人に残したいと考えています。伝統ある修徳をまもっていききたいという地域の願いがあります。

伝統ある修徳をまもるために  
次のことをやっていきましょう。

#### 地蔵盆の保存

子どもを中心とした行事を地域の人々は楽しみにしています。地蔵盆をきっかけに地域のつながりを強めましょう。

#### お祭り（お神輿）をつくる

お祭りを開催すると、地域は活気にあふれます。加えて、地域みんなが望むお神輿をつくりましょう。

#### 人が訪問したくなるまちづくり

地域の人はもちろん、地域の外からも人が訪れたいような、魅力的なまちにしましょう。まず、地域の人が自ら楽しめるまちをつくりましょう。

#### 地域の名所・旧跡を活用する

地域の誇りである名所・旧跡の魅力を、より多くの人に知ってもらいましょう。人を集められる魅力が修徳にはあります。それをうまく活用しましょう。

### 重点取組

まちづくりに勢いをつけるためにも、お祭りとお神輿をつくりましょう。



## ■人と人とのつながりを大事にする修徳でありつづけましょう

### 自治の伝統をまもり、顔の見える絆の強いまち

修徳はこれまで人と人とのつながりを大事にし、安心して生活をつづけるために必要な地域の活動をみんなで盛り立ててきた、まとまりのある仲のよいまちです。

立地場所は交通至便ですが、車の往来や人通りが多い通りとそうでない通りがあります。修徳には昔から人が沢山往来する街道があり、見知らぬ人も多いなかで安心して住むためには互いが顔見知りの関係になり、声を掛け合う、見まもりあうなどができるようにすることが何より重要だったのです。

それは今でも同じであり、住んでいる人のなかに新しく住民となる方が増えている現代では、昔以上に互いの関係づくりが難しくなり、地域の生活環境をまもりにくくなっています。

子どもやお年寄りが安心して生活でき、おたがいに、このまちをふるさと思いい、長く住みつづけていけるようにしたいものです。新しくこのまちに住む人たちにも、地域のことをよく知って地域の人たちと顔見知りの関係になって、いっしょに地域を盛り立てていただきたいと願っています。

人のおつきあいを大切に  
いくために 次のことをやっ  
ていきましょう。

#### マンションなどにお住まいの人との交流

マンションの建設時には交流のためのイベントなどを開催するなど、具体的なアクションを起こし、一人でも多くの人に仮想マンション町内会への参加を呼びかけましょう。

#### 知り合いの多いまちづくり

誰もがあいさつしあい、顔見知りを増やしましょう。子どもの安全をまもるという視点から、人の目の届かないところが少ないまちを目指しましょう。

#### 京都での暮らし方の伝承

京都での暮らし方を知らない新しい住民にはパンフレットを配布するなど、知らないことで生じる誤解を防ぐようにしましょう。

#### 地域とのつながりを重視する建物づくり

住宅であれば表札を表示し、マンションであっても地域と共有の施設を開放するなど、地域とのつながりを大切にしていると感じられる建物を増やしましょう。

### 重点取組

仮想マンション町内会の活動（交流のためのイベント等）を具体的に進めましょう。

## ■賑わいのある修徳にしましょう

### 商工業の店の多い、 歩いて暮らせる賑わいのあるまち

修徳には松原通沿いに商店が集積しています。商店のなかにはここにしかない特徴的な伝統産業も多く立地しています。

また、松原通のような、歩いて行ける身近な場所に商店があれば、高齢者に便利で、車の使用を少なくするにも役立ちます。学区に住む高齢者もだんだんと増えてきていることから、歩いて暮らせるまちづくりが重要になっています。

ここにしかない魅力的な商店が増えると、学区外からも多くの人を訪れ、まちは賑わいを取り戻すでしょう。

修徳のもつまちの特徴を地域資源として活用し、多くの人を訪れるかつての賑やかなまちを目指し、活気ある修徳にしたいと願っています。

賑わいを取り戻すために次のことをやっていきましょう。

#### 松原通に面するマンションの1階の店舗化

松原通に面するマンションの1階部分がシャッターや駐車場になってしまうと、商店街が寂しくなってしまいます。なるべく店舗として活用してください。

#### 商店の情報提供

新しく住む人は、修徳学区のなかにあるよいお店のことを知らないままかもしれません。修徳での買い物を増やしてもらうためにも、商店の情報提供を進めましょう。

#### 特色あるお店づくり

人の集まるお店には理由があります。地域の人だけでなく、地域外からも買い物に来たくなるような特色ある、魅力あるお店に出店してもらうようにしましょう。

#### 空き店舗・空き家の有効活用

事業を始めたいけれど場所がないといった若者やベンチャー企業などに、空き店舗・空家を提供しましょう。商店街の活気を取り戻しましょう。

### 重点取組

商店主との連携を深め、商店街の「よいお店」情報の発信などに取り組みましょう。



## ■自分たちの誇りにふさわしい町並みを増やしましょう

修徳学区が昔から大切にしてきたものと、  
今の暮らし方との調和に配慮した町並みがあるまち

修徳にふさわしい町並みとはどのようなものでしょうか。緑がいっぱいの修徳公園、まちのなかで見つけることができる町家や、周囲への気遣いを感じる個人のお宅やビルなどの建物、由緒ある地域の歴史や文化を感じさせる史跡が大切にまもられていることなどではないでしょうか。

最近では、昔ながらの町家を残したいと考える人も多く、新築の住宅であっても家の門構えに町家風のしつらえを取り入れる事例が増えています。その一方で町家のなかには空き家のまま放置されていたり、老朽化が進んでいるところも見られます。また、ビルやマンションの建設によりまちの景観はかつてとは大きく異なってきています。

町並みは時代によって少しずつ変化していくものですが、変化する町並みが地域にとって誇りに思えるものであることを願っています。

修徳は、由緒ある地域を大事にしながら、生き生きとした生活を感じたり、花や木の葉が顔を覗かせたり、住んでいる人同士がお付き合いしていると感じられる建物を増やしていくことが地域の願いです。

修徳らしい町並みを残すために  
次のことをやっていきましょう。

### 京都らしい町並みづくり

町家が空き家のまま放置されているなど課題はありますが、京町家も残る、京都らしい町並みをつくっていきましょう。

### 緑の多い町並みづくり

地域の誇りである修徳公園に代表されるような、緑あふれる町並みをつくっていきましょう。

### 連続性を感じられる町並みづくり

寺社の周辺や商店街の周辺、公園の周辺では調和する景観がそれぞれ異なります。周辺の景観との調和に配慮し、連続性ある町並みをつくっていきましょう。

### 中高層建築物の新築時には緑地確保を

中高層建築物の増加に伴い修徳も新たな町並みを形成しつつありますが、修徳らしい緑の多い町並みを継承するために、中高層建築物の新築時には緑地確保をお願いします。

## 重点取組

地区計画の方針を地域のみんなで実現し、次のまちづくりにつなげましょう。

# 修徳学区内の建築物の建て方のお願い

## ■『京のまちなな〜』とを感じる町並みを大切に!

### 町家の残るまちを意識した建て方を!

#### ○町並みに調和した建て方

- 修徳学区は業務ビルや商店、そして住宅とが混在している地区です。また昔ながらの町家がまだまだ残っているまちでもあります。
- 同じ修徳学区のなかでも商店街のあるところと公園のあるところ、また寺社のあるところなど地域により調和する景観が異なり周囲への配慮の仕方も異なってきます。地域ごとで違っていても、修徳全体では一体感がある町並みをめざし、建物のデザインや色、壁面の並び、軒や庇の高さには統一感をもたせるなど、建て方に少しずつ配慮し、全体として町並みに調和した建物を増やしたいと考えています。

#### ○「京都らしさ」に配慮した建て方

- 個人の建物であっても、通りや町並みに調和し、『京都のまちなな〜』と感動をもって見られる建物にしたいものです。
- 周囲に配慮した建物は、皆さんから「地域の誇り」として賞賛をえて、尊敬の気持ちをもたれています。
- ご自宅や店舗の新築、建て替え、改修などに際しては、ぜひ、ご配慮ください。

### ～京町家と京都の暮らし～

京都に暮らす人たちは、子どもの頃からの景色として、また思い出のよすがとして京町家に慣れ親しんできました。また、京町家とは、京都に暮らしてきた人にとって記憶に残るふるさとの風景であり、懐かしさを感じる場所でもあります。

そして、京都というまち全体を考えたとき、京町家は、京都のまちなかの景観の大事な要素であり、京都の暮らしの文化を引き継いできた地域資源でもあります。その例として、京都を代表する祭りである「祇園祭」のなかでも、町家の外観及び内部の空間やそのしつらえが重要な役割を果たしてきました。他都市や郊外のどこにでもある景観と建物で、「京都らしさ」を失ってはとりかえしがつきません。

また、最近では昔から残ってきた町家だけではなく、それらの要素を受け継いだ「新しい町家」も京都の景観をつくり出す重要な要素のひとつとなっています。屋根や窓の形、塀だけであっても、「京町家」はその歴史を伝えて、我々のなかに足跡を残していくでしょう。

皆さんの記憶のなかの町家を自分たちの暮らしの思い出を、この修徳に留めるためにも「京町家」をいろんなかたちで残し、後世に伝えていきましょう。



## ■ 修徳学区民は次に示すような 建築物の建て方を望んでいます

新築はもちろんのこと、将来の建て替えや増改築をされるとき、  
次のような事項に配慮いただき、  
修徳にふさわしい町並みが増えることを望んでいます。

### 修徳学区にふさわしい“平成の町家”を！

- 新しい素材も伝統美と調和——瓦・格子・木材の色と調和する色を
  - 新しい素材や新しい造形美、若い世代の生活様式に合うインテリアを町家に付加した「平成の町家」であっても、伝統の知恵と調和した現代の造形を考えることができます。修徳学区にも増えつつある魅力的な「平成の町家」を探してみてください。
  - 『色』については、際立つ色は白色で表現し、原色やピンク、オレンジ、真っ黒などの使用は避けてください。木材の色、瓦の色、渋い緑色などであっても色のコントラストをうまく活用すれば個性的なデザインの提案は可能だと考えます。
  - 個人住宅の『高さ』は3階建てまでとし、軒高の揃う、統一感のある景観形成を望んでいます。

### ビル・マンションも修徳学区の町並みとの調和を！

- 高層の建築物は圧迫感のない高さに規制を
  - ビル・マンションなどは、「職住共存地区内（幹線道路の内部地区）」の建築ルールがあり、実質的には20m以上が建てにくい規制がされています。修徳としては、その高さが圧迫感のないものかどうか、町並みや生活に調和する建物の高さがどうあるべきか、今後確定していきたいと考えています。
- 高層の建築物と町家の間は緑化空間に
  - 高層の建築物は、駐車・駐輪スペースの確保以外に、緑化面積を充分確保してもらい、高層の建築物と隣接する町家など低層建築物との境界に、目隠しにもなる緑化空間を設けてほしいと考えています。
- ビル、マンションに瓦屋根、格子の設置を
  - マンションの正面については、一階、二階ともに瓦葺の庇をつけ、屋上も瓦屋根または緑化帯としていただき、玄関正面には、伝統的な町家のシンボルである「格子の造形」が設けられることを望んでいます。
- 幹線道路に面する建物の裏には緑化スペースを
  - 幹線道路（五条通と烏丸通）に面する建物は、後背地の建物に対し圧迫感を与えない空間を確保し、中低木の緑化スペースを設けることを望んでいます。

## ■こんな建て方がよいと思いませんか？

## 町家編

### 町家の変遷と混合した造形美

修徳には、こんなすばらしい町家が残っています。皆さんが町並みに関心をもって歩いていただくと、伝統的な町家もその時代時代の変遷があり、混合した町家の造形美を町並みに感じられるのではないのでしょうか。



江戸末期から明治にかけて定着した典型的な京都の町家です。1階は駒寄（家の前の囲い）の向こうに出格子があり、中2階に虫籠窓があります。奥に総2階が見えます。

通りに沿って犬矢来（向かって右端）と出格子が残る町家です。2階は昭和初期に流行した金属棒の格子が、窓枠にはめ込まれています。



昭和初期に確立した窓枠の前に金属棒が格子状にはめ込まれ、それを支えるように、重厚な石造りが目を引きます。



### こぼれ話

太平洋戦争末期に金属の供出で、駒寄や格子の金属は木製に変わってしまいました。つらい時代も経験した町家でもあります。



## ■こんな建て方がよいと思いませんか？

町家改修・新築編

### 修徳の町並みや通り、お隣へ配慮した建て方

住宅の一部を改修しても新築しても、伝統的なデザインの象徴である「瓦と格子」を取り入れると、修徳の町並みに配慮されている印象をもつことができます。



新しく改修された住宅であっても木の素材感と瓦がついた土塀には、安心感を覚えます。



格子が残る匠の家です。また、格子窓の横には、その店舗の商品の展示も見えます。



石造りの上の格子状の金属棒のある窓が、高度経済成長の時代に、サッシの金属格子に改装された町家です。



新築で「平成の町家」でも落ち着いた色合いや瓦屋根の印象をきわだたせる素材の利用によって、町並みへの配慮を感じることができます。

## ■こんな建て方がよいと思いませんか？

マンション編

### 地域とのつながりを感じられる建て方

最近の建材を用いても、瓦屋根風の底をつけ、屋上が瓦屋根風になっているマンションは、修徳学区の町並みへの配慮を感じます。また、道路に面している部分に、瓦屋根をつけた塀などを設けて町並みと一体感をもつように配慮されています。



マンションの1階に瓦屋根を設け、入り口やアプローチに緑を配置していると潤いを感じられ、相乗効果で、とても印象がよくなります。



龍池学区の建物です ▶



## ■こんな建て方がよいと思いませんか？

企業ビル・店舗編

### 修徳の企業や商店に魅力がでる建て方



京都中でも、もっとも魅力的なビルでしょう。S建設の設計者が特別に意識して設計したと社長さんの説明がありました。瓦の庇と格子、前庭が見える格子状の造形がすばらしい。

格子の入り口と窓、そして、瓦の庇が町並みの核になる造形をつくりだしています。きわだった色は白色で表現する典型的な町家風のビル・店舗です。



長い壁面の一部に中庭を配置することで、圧迫感が薄れます。また、中庭の木を壁越しにみることで、心がやすらぎ町並みへの配慮を感じます。

## ■こんな建て方がよいと思いませんか？

企業ビル・店舗編

伝統美を継承した町家店舗の魅力と商業ビルの造形の新味



入り口にこんな町家の風情があれば、そのなかの企業店舗や個人邸宅が町家風でもビル風でも、町並みの核になることができます。



商業ビルのデザインについて、円形や曲線を用いると、ビル自体は町並みに変化をもたらすものの、やさしい印象がよいと思う学区民が多いのではないのでしょうか。



2階に虫籠窓が残り、1階部分には石造りがみられ、窓にサッシの格子があります。明治と昭和、平成の造形がマッチした町家です。コーディネートされた暖簾と看板と格子の色の伝統美が店舗に魅力を加えています。

## (資料 - I) 修徳学区の地区計画

修徳学区では、まちづくりを進めていく指針として、平成13年4月に地区計画を策定しています。

※職住共存地区における地域協働型地区計画の第1号です。

### 名 称

修徳元学区地区地区計画

### 位 置

京都市下京区藪下町、富永町、中野之町、亀屋町、布屋町、月見町、材木町、小田原町、徳万町、元両替町、坂東屋町、長刀切町、玉津島町、弁財天町、御供石町、高砂町、五條烏丸町、悪王子町、大堀町、吉水町、俊成町、玉屋町、大江町、深草町

### 面 積

約15.9ha

### 地区計画の目標

当学区は、平安遷都以来1200年を超える歴史を有し、和歌の由緒の豊富な地域として著名であるとともに、歴史的に様々な商業・手工業が営まれる学区である。また、日本でいち早く小学校を設立したことに見られる自治の気風が溢れ、職と住が共存する落ち着いた市街地を形成している。

当学区においては、「社会教育プラザ 花と緑、健康と福祉の学区 修徳」の実現を目指したまちづくりを進めており、今後とも、このまちづくりの進展を図るために、地区計画の目標を以下のように定める。

#### ①豊かなふれあい・活力ある交流のあるまちづくり

各世代間の定着を図るとともに、住民相互のふれあいや地域の歴史や文化を大切にしながら、安全で快適な活力ある地域社会の形成を図る。

#### ②美しく緑豊かなうるおいのある市街地環境の形成

修徳小学校跡地の街区公園等の公共施設を核に、地域緑化・地域美化に努め、美しく緑豊かな潤いのある市街地環境の形成を図る。



## 土地利用の方針

当学区を細区分して、それぞれ次の方針により地域の特性に配慮した土地利用を誘導する。

- 職住共存地区（烏丸通沿道地区及び五条通沿道地区以外の区域）  
商工の賑わいの継承と住機能の維持により、都心活力の源となる多様な土地利用が共存する中低層を基調とした市街地の形成を図る。
- 烏丸通沿道地区及び五条通沿道地区  
後背地の住環境の維持に配慮しながら、都心にふさわしい広域的な商業・業務機能の集積を図る。

## 地区施設の整備の方針

良好な市街地環境の形成のため、既存の道路等の施設を有効に生かし、緑豊かで潤いがあり、歩行者の安全性・快適性に配慮した魅力ある施設整備を図る。

## 建築物等の整備の方針

地域の個性の維持・発展のため、地域の歴史・文化的な拠点施設や京町家等の伝統的な建築物との調和を図る。また良好な公共空間の維持のため、建築物の整備に際しては、必要な駐車場・駐輪場の確保を図る。

また、職住共存地区においては、居住環境の保全のために、相隣環境に配慮し、地域社会と調和のとれた建築物の用途とする。共同住宅においては、居住者の地域活動への参加を促進しながら、ファミリータイプの共同住宅の誘導を図る。



▲住民のふれあいに子どもたちも一役



▲下京修徳ふれあい福祉会館と修徳公園

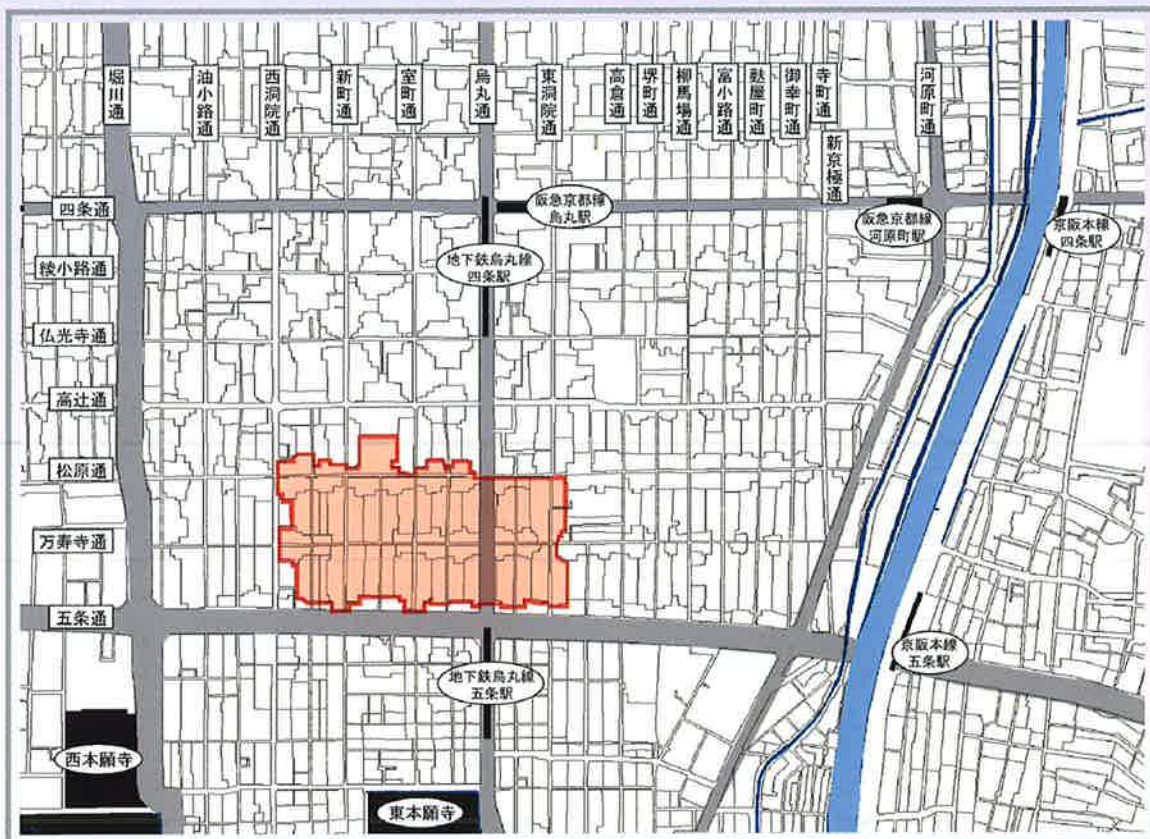
## (資料 - II) 修徳学区の位置と現状

### 修徳学区の位置

修徳学区は、京都の都心部の南に位置する地域です。北は松原通、南は五条通、東は東洞院通、西は西洞院通に囲まれています。

様々な商業・手工業が営まれてきており、職住共存のまちとして発展してきましたが、この町並みは大きく変化しています。

### 修徳学区の位置図





## 町並みの変化

平成8年から平成15年までの間に、修徳学区の町並みがどのように変化したか、修徳学区に建築されている建物の種類の変化から検証してみました。

次頁の上段の図は平成8年の修徳学区であり、下段の図は平成15年のものです。建物の種類別に修徳学区の地図の色塗りをすると変化の様子がよくわかります。

図の青色は商店を表しています。平成8年には松原通沿いや室町通沿いには商店が多く見られましたが、平成15年には減っていることがわかります。商店の多くが住宅に変わりつつあります。

図の赤色はオフィスビルを表しています。平成8年の時点でも烏丸通沿いには幾つか立地していましたが、平成15年には烏丸通だけでなく、学区全域で増えていることがわかります。

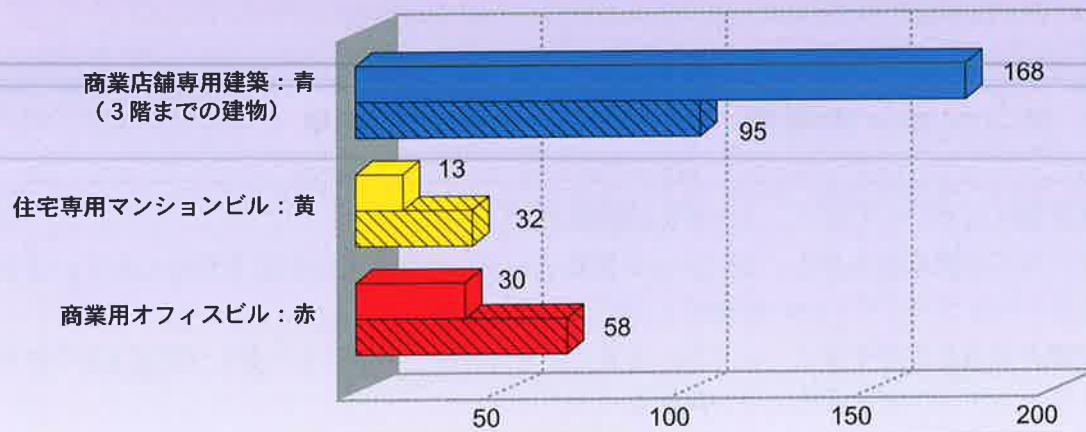
図の黄色はマンションです。マンションについても平成8年と比較すると、平成15年までに数が増えていることがわかります。

図面の凡例と建物種類別の構成比

種 類		色	平成8年		平成15年	
3階までの建物	住宅専用	緑	229	33.5	257	37.6
	商業店舗専用	青	168	24.6	95	13.9
	店舗・住居併用	黄緑	132	19.3	125	18.3
小 計			529	77.4	477	69.7
マンションビル	住宅専用	黄	13	1.9	32	4.5
	1階が店舗で上の階が住居中	茶	25	3.7	24	3.5
小 計			38	5.6	56	8.2
商業ビル	オフィスビル、自社ビル	赤	30	4.4	58	8.5
	商業ビル	橙	3	0.4	2	0.3
	ホテル・旅館	紫	1	0.1	2	0.3
小 計			34	4.9	62	9.1
そ の 他	駐車場・ガレージ・倉庫	黒	68	9.9	64	9.1
	行政、公共施設、寺社、病院	橙で縁取り	11	1.6	11	1.6
	空家など	黒で縁取り	4	0.6	14	2.1
小 計			83	12.1	89	13.0
合 計			684	100.0	684	100.0
3階までの建物			529	77.4	477	69.9
マンション・商業ビル			72	10.5	118	17.3



建物数の種類別の推移（平成8年～平成15年で変化の大きかったもの）



【平成8年】



【平成15年】





# 修徳学区の現状

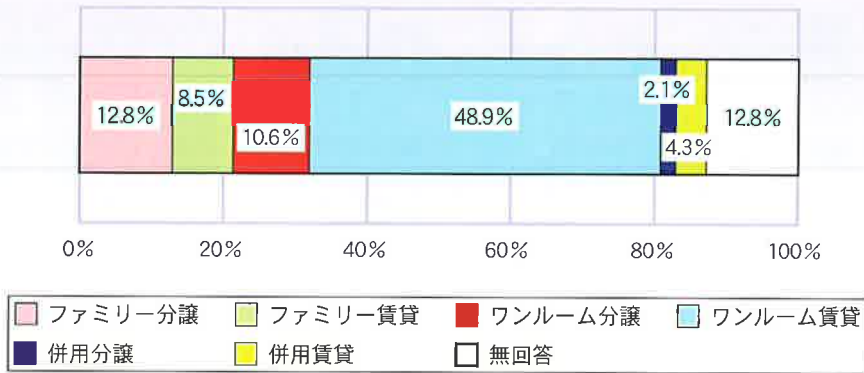
## マンションの増加

## ワンルームタイプが過半

修徳学区においてもマンションの建設が増えています。マンションの種類をみると、ワンルーム賃貸タイプのマンションが約半数を占めています。次に多いのがファミリー向け分譲タイプとなっています。

分譲と賃貸を合わせると、ワンルームタイプが59.5%、ファミリータイプが21.3%であり、ワンルームタイプが大変多いのが現状です。

修徳学区のマンションの種類



## 人口・世帯数ともに増加傾向

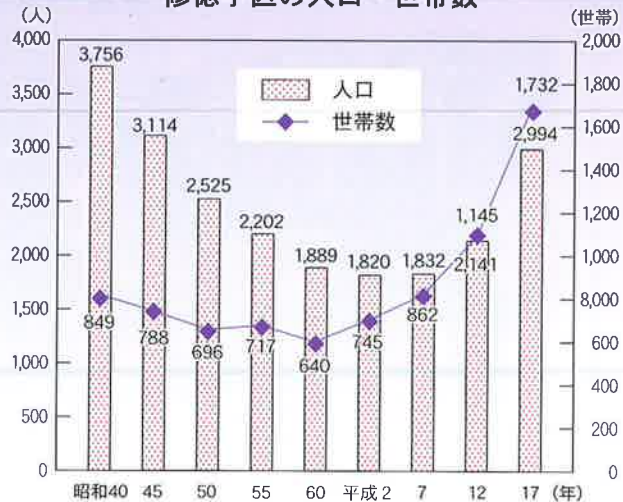
## 核家族化が進行か

修徳学区の人口・世帯数は、近年増加しています。

人口は昭和40年には3,756人でしたが、平成2年には1,820人まで減少しました。しかし、その後人口は増加し始め、平成17年時点では2,994人にまで回復しました。

世帯数も同様に昭和60年まで減少をつづけていましたが、その後は増加しつづけて、平成17年時点では1,732世帯となっています。世帯数の増加がとくに著しいことから核家族化が進んでいると考えられます。

修徳学区の人口・世帯数



\* 国勢調査より

## 産業の動向

### サービス業人口の増加顕著

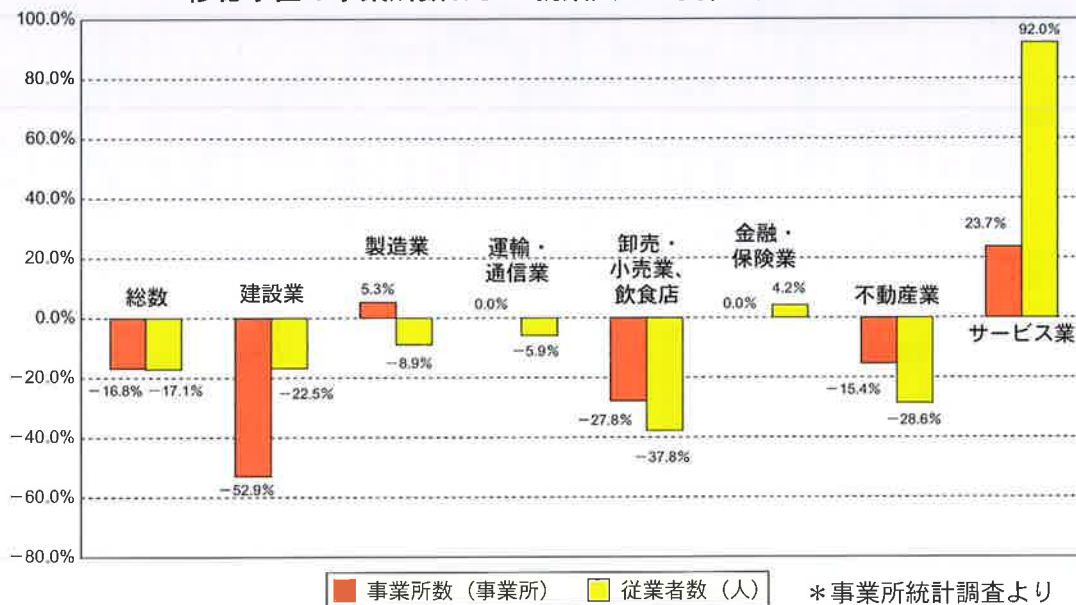
修徳学区における平成3年～平成13年の間の事業所数および就業人口の変化をみると、総数では事業所数、就業人口ともに減少しています。

そのなかでも事業所数では「建設業」が大きく減少し、就業人口では「卸売・小売業・飲食店」がもっとも減少しています。

一方で、事業所数および就業人口ともに増加しているのはサービス業であり、事業所数は23.7ポイント増、就業人口では92.0ポイントの増加となっており、ここ数年でサービス業に従事する人が急増していることがわかります。

なお、平成13年の事業所統計調査以降に、大型の金融業者が修徳学区内に新たに立地していることから、金融・保険業の就業人口はさらに増加していると考えられます。

修徳学区の事業所数および就業人口の変化（H3→H13）



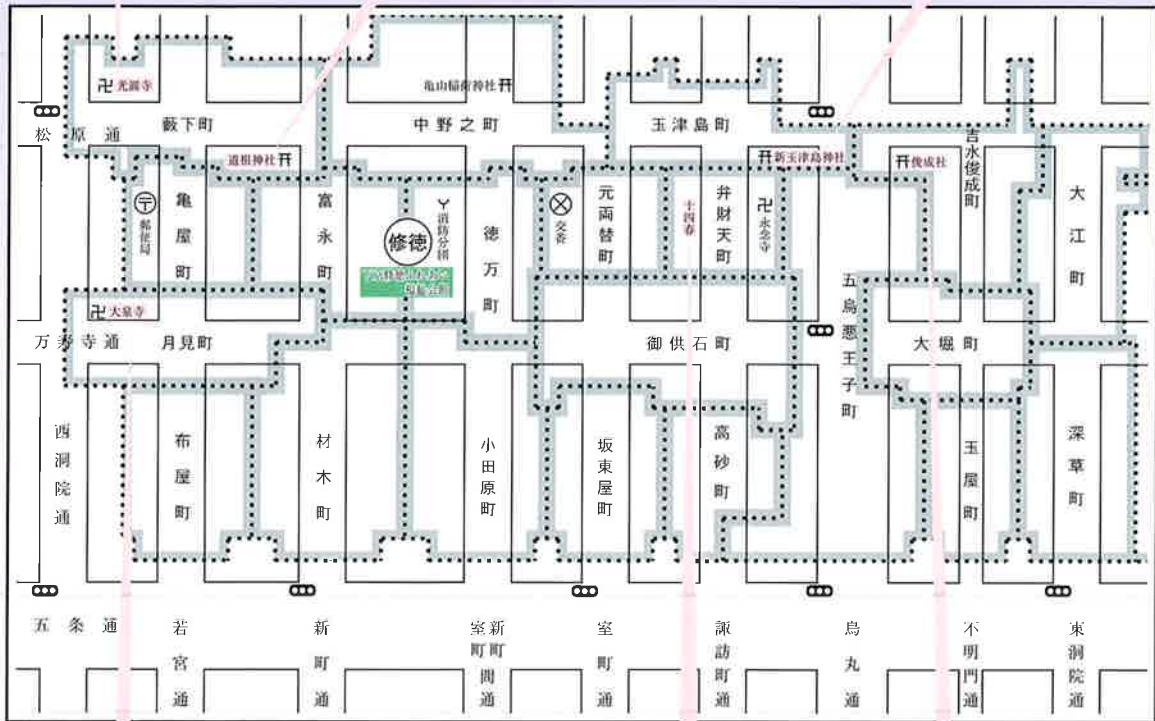
## 商業の動向

### お店が少なくなり1ヵ所で買物が終わらない

修徳は、その長い歴史を通じて商業・手工業が営まれ、職住共存のまちとして発展してきました。市街地の中心部からはやや離れますが、交通の利便性がよく商店街も発展し、賑わいのあるまちでした。しかし、最近では社会状況の変化やスーパーやコンビニエンスストアの出店などが他学区などで増えて、お客さんの数が減ってきており、それにともない後継者がいないことも加わって、お店をたたまれる方も増えてきました。そして、お店の跡地は駐車場になったりマンションになったりしています。学区民は買物が1ヵ所で終わらないので困っています。



# 修徳学区の名所・旧跡





## (資料 - III) 修徳自治連合会の事業

### [1] 学区民の心の絆と景観の中心

修徳自治連合会は修徳小学校にかわる「修徳ふれあい福祉会館」と「修徳公園」を、学区民の心の絆と学区の景観の中心と考えています。



滝とせせらぎと花と緑の修徳公園から  
修徳ふれあい福祉会館をのぞむ



当年度の事業計画を審議する自治連合会  
総会から活動が始まる(せんだんホール)

### [2] 修徳自治連合会の4大事業

(1) 安心安全のまちづくりに欠かせない修徳学区自主防災会の防災訓練、(2) 夏のふれあい広場「サマーナイト in 修徳」、(3) 修徳ふれあい大運動会、(4) 冬の子どもたちのための大会 (むくの木学園の子どもたちを招待した福祉の交流など)



組織的な危機管理体制がなかった阪神  
淡路大震災に学び自主防災の訓練



日常どこにでもあるボトルで雨水や井  
戸水を簡単にきれいな水にする訓練



子どもたちを見まもり、顔の見える安心  
安全のまちに！「声かけ愛のたすき運動」



「憲章」や「方針」など重要事項はワーク  
ショップなどで作っていき



「サマーナイト in 修徳」は千人以上の  
新旧住民のカラフルな大ふれあい広場



洛央校区、児童館、近隣校区の子ども  
たちの躍動する盆踊り





ふれあい大運動会に町内会の皆さんの熱が入る



女性が力走する女子100m競走の背景に、町旗を掲げたカラフルな各町応援席が連なり、声援がとぶ



冬の子どもたちのための集い（リトミックで音感を養う—2分音符の音で輪を頭にのせて王様だ）



むくの木学園の子どもたちが見つめるなか「はらぺこあおむし」の巨大紙芝居



「修徳雪まつり」では京都では体験できない雪国の遊びを実感でき大喜び



「修徳雪まつり」で「かまくら」が完成する前に、早くも小さな子たちが入り込んだ「かわいい!」

### 〔3〕町内会での心の絆はやはりお祭り

世代間の交流ができる地藏盆やお火焚きなどの民俗的なお祭りは残していきたいものです。



「数珠回し」に数珠をとおして町内会の人びとの心がつながる



子どもたちが集う地藏盆のゲームに大人の皆さんも嬉しそう





社会教育プラザ 花と緑 健康と福祉の学区 <sup>まち</sup> 修徳

京都市  
下京図書館

生涯学習の資料、読書の楽しみにご活用ください

京都市下京区新町通松原下る富永町110-1  
修徳ふれあい福祉会館4F

☎ 351 - 8196

編集発行

修徳自治連合会

修徳まちづくり委員会  
ビル・マンション対策委員会

<http://www.fureaishutoku.jp/>  
E-mail: [zitikai@fureaishutoku.jp](mailto:zitikai@fureaishutoku.jp)

発行日 平成18年3月31日  
印刷 (有)章美プリント



